



内科・泌尿器科

のはなし

早期発見・早期治療！泌尿器科の腫瘍の話／その106

健診とドックの話その⑤ 死因別死亡率第一位『がん』について！

隔月連載のお話、今回は、病気の早期発見・早期治療に重要な健診とドックについての5回目。いよいよ、日本の死因別死亡率第一位、がんについて、お話ししていきます！

昭和55年、1980年に、戦後、死因別死亡率が第二位であった、脳血管疾患を抜き、悪性新生物、いわゆる『がん』が一位となり、現在も独

走中です。厚生労働省がホームページで公表している、最新の2022年における死因別死亡率割合では、悪性新生物が24・6%で第

と、第三位の老衰が10・6%から約1ポイント増加し、『がん』が26・5%から約2ポイント減少しているのが特筆すべき点です。『がん』に対するさまざまな啓蒙活動が行われ、市民の皆さんの知識も増え、診断から治療までの医学の進歩も相まって、予防医学から早期発見・早期治療の歯車が上手く回り、『がん』の予後も改善し、

『第7回 あさひかわ市民講演会』のご案内です！いよいよ、この12月号が発刊されてすぐの11月17日（日）、イオンシネマ旭川駅前にて、午前9時半開場、10時から2時間弱の講演会を開催します！前後半の二部構成で、前半は私から、本誌で現在連載中の『日本人の死亡率からみた、病気の早期発見のための健診について』をさらに詳しくお

伝えし、後半は旭川医科大学腎泌尿器外科科学講座の橘田岳也准教授から『おしこの悩み、解決しましょう！』という内容でご講演いただきます。ゆつたりシートでドリンク片手に、最新の医療情報をお聞きください。詳細は、11月のライナー紙上や当院ホームページでご案内中です。お問い合わせは、☎0166626

一位、第二位は心疾患で14・8%、第三位が加齢による自然死ともいえる老衰で11・4%、第四位が脳血管疾患で6・8%となっています。テレビなどで報道されているように、日本人の約半数が何らかの『がん』にかかり、日本人の約4分の1の方が『がん』で亡くなっている状況にあります。

一方、前年と比較しますと、第三位の老衰が10・6%から約1ポイント増加し、『がん』が26・5%から約2ポイント減少しているのが特筆すべき点です。『がん』に対するさまざまな啓蒙活動が行われ、市民の皆さんの知識も増え、診断から治療までの医学の進歩も相まって、予防医学から早期発見・早期治療の歯車が上手く回り、『がん』の予後も改善し、

『第7回 あさひかわ市民講演会』のご案内です！いよいよ、この12月号が発刊されてすぐの11月17日（日）、イオンシネマ旭川駅前にて、午前9時半開場、10時から2時間弱の講演会を開催します！前後半の二部構成で、前半は私から、本誌で現在連載中の『日本人の死亡率からみた、病気の早期発見のための健診について』をさらに詳しくお

